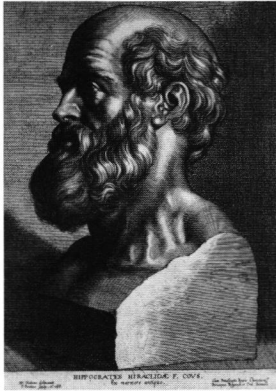


コス島のヒポクラテス πποκράτης



ピーテル・パウル・ルーベンス作版画、1638年。
アメリカ国立医学図書館蔵・画像提供

「医者 of 始まり」

院長 林田 良三

医者 of 始まりと言われれば、まず頭に浮かぶのは「医学 of 父」と称されるヒポクラテスであろうか。紀元前5世紀、古代ギリシャ時代にエーゲ海 of コス島で代々医者 of 家系に彼は生まれている。ではなぜ祖父や父でなく、彼が現代において「医学 of 父」と称されるのか。それは迷信や呪術で医学がなされていた時代にあつて、経験や観察に基づく科学的見地に立脚した医学を確立し、それを実践したからである。2千数百年前と言え、日本では弥生時代のはじめのころで医学という概念すらなかったと思われる。そんな時代に怪しげな医学を経験科学に基づく医学へと昇華させたのである。

さらに彼は医者 of 守るべき職業倫理についても有名な「ヒポクラテス of 誓い」として残している。これは彼の死後、100年以上年経って編纂された「ヒポクラテス全集」の中に記されている。

ヒポクラテス of 誓い (訳：小川鼎三)

1. この術を私に教えた人をわが親のごとく敬い、わが財を分かつて、その必要あるとき助ける。
2. その子孫を私自身 of 兄弟のごとくみて、彼らが学ぶことを欲すれば報酬なしにこの術

を教える。そして書きものや講義その他あらゆる方法で私 of 持つ医学 of 知識をわが息子、わが師 of 息子、また医 of 規則にもとずき約束と誓いで結ばれている弟子どもに分かち与え、それ以外 of 誰にも与えない。

3. 私は能力と判断 of 限り患者に利益すると思ふ養生法をとり、悪くて有害と知る方法を決してとらない。
4. 頼まれても死に導くような薬を与えない。それを覚らせることもしない。同様に婦人を流産に導く道具を与えない。
5. 純粹と神聖をもってわが生涯を貫き、わが術を行う。
6. 結石を切りだすことは神にかけてしない。それを業とするものに委せる。
7. いかなる患者を訪れる時もそれはただ患者を益するためであり、あらゆる勝手な戯れや墮落 of 行いを避ける。女と男、自由人と奴隷 of 違いを考慮しない。
8. 医に關すると否とにかかわらず他人 of 生活についての秘密を守る。
9. この誓いを守りつづける限り、私は、いつも医学 of 実施を楽しみつつ生きてすべての人から尊敬されるであろう。もしこの誓いを破るならばその反対 of 運命をたまわりたい。

「ヒポクラテス of 誓い」は崇高で高潔な医者 of 精神性を示したものである。2千数百年 of 時を経ても色あせることなく、世界中 of 医者たちにジュネーブ宣言として形を変え受け継がれている。

医学は日進月歩でその蓄積は膨大な医学大系となり、病気 of 診断、治療に画期的なアプローチが可能となった。一方で現代医学はともすれば、一人 of 人として患者をとらえる視点を忘れがちである。そしてこのことが多くの医療過誤やそれによる医療訴訟 of 根底にあるのかもしれない。一人 of 医者と一人 of 患者との関係性 of なかに医者 of 価値を見出した「ヒポクラテス of 誓い」に今こそわれわれは立ち返ってみる必要がある。今そこにいる患者をなんとかしたいという気持ちが医者 of 始まりだったはずである。ヒポクラテスもきっとそんな思いから医者としての一步を踏み出したにちがいない。

